

Drug survival rates of biological disease-modifying antirheumatic drugs and Janus kinase-inhibitor therapy in 801 rheumatoid arthritis patients: a 14 year-retrospective study from a rheumatology clinic in Japan

近藤, 正一

<https://hdl.handle.net/2324/2236336>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (医学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



氏 名：近藤 正一

論 文 名：Drug survival rates of biological disease-modifying antirheumatic drugs
and Janus kinase-inhibitor therapy in 801 rheumatoid arthritis patients:
a 14 year-retrospective study from a rheumatology clinic in Japan

(801 例の関節リウマチ患者における生物学的製剤と JAK 阻害剤の継続率
ー日本のリウマチクリニックでの 14 年間の後ろ向き研究ー

区 分：乙

論 文 内 容 の 要 旨

目的：関節リウマチ (RA) における 7 つの生物学的疾患修飾性抗リウマチ薬 (bDMARDs) と 1 つのヤヌスキナーゼ (JAK) 阻害剤の長期成績を調べる。

方法：2003 年から 2017 年の間、我々のリウマチクリニックを受診し、bDMARDs と JAK 阻害剤で治療した 801 例の RA 患者を後ろ向きに、薬剤の継続率、薬剤の中止率と薬剤スイッチ率を調べた。

結果：薬剤継続率は 1 剤目 (ナীব) で投与した患者でみると、トシリズマブ (TCZ) が 6 年目で 77.8% と最も高く、次いでゴリムマブ (GLM) : 61.5%、エタネルセプト (ETN) 48.9%、アバタセプト (ABT) : 41.6%、インフリキシマブ (IFX) : 34.5%、アダリムマブ (ADA) : 34.4% であった。薬剤をスイッチすると継続率が減少した。中止率は副作用による例は 2 年以内に多く、効果不十分による例は 6 ヶ月以内が多かった。

結論：この調査は日本の 1 つのリウマチ専門クリニックからの長期間にわたる多数例の RA 治療報告である。我々は bDMARDs の継続率を高くするためには、容易に薬剤をスイッチする前に適切な薬剤を選択し、投与量を最適化させ、薬剤効果を長期間継続させることが重要と考える。